



学校だより



令和5年度
三方小学校だより第9号
12.16(発行者千田)

2023年、登校する日も残り4日となりました。
三方小の子どもたちにとって、2023年はどんな年だったのでしょうか。

昨年度校長として赴任してから、子どもたちには「あいさつ」「ありがとう」この2つの「あ」を大切にしてほしいと言いつづけてきました。今までの教員生活を振り返っても、この2つの「あ」ができる子が多い学級はとても雰囲気の良い学級になるし「学校へ行くのが楽しい」とみんなを感じる学級に

なっているように思います。12月1日の人権集会では、この2つの「あ」は人権を守る上でとても大切だと伝えました。上記の『人権感覚診断テスト』を、人権集会で子どもたちと一緒にやりました。

10問中9問以上が「YES」の人は人権感覚が高い人です。家庭でもわが子は何問が「YES」だったのか聞いてみて下さい。

右のグラフは学校生活アンケートの質問項目、「学校が楽しいですか」の経年比較です。

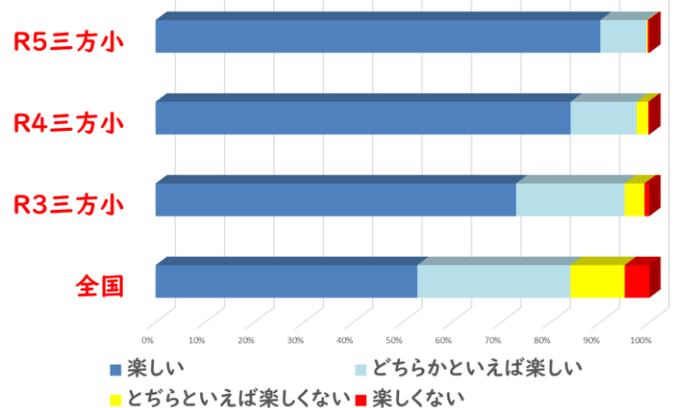
統合前の三方小、統合初年度の三方小と比較して、本年度の三方小が一番肯定的な回答が多くありました。『楽しくなければ学校じゃない』と考えているのでとてもうれしい結果です。ただ、1%の児童は否定的な回答をしていますし、保護者は「お子さんは楽しく学校生活を過ごしていると感じましたか」の質問項目で3%の否定的な回答をしています。

「三方小137人 みんな笑顔」を目標としているので、137人全員が肯定的な回答になるように職員で力を合わせて頑張っていきたいと思えます。次ページ以降には、スクールプランで立てた数値目標の達成状況を見るために、児童、保護者、教職員にアンケートをとり、成果と課題を分析した学校評価シートを印刷しましたのでご覧下さい。

人権感覚診断テスト

- Q1 友だちや先生と気持ちよくあいさつができる。
- Q2 自分のそうじ場所が終われば、終わっていない場所を手伝っている。
- Q3 教室やろうかなどにゴミが落ちていたら、ひろうようにしている。
- Q4 学級で欠席している子のことを気にかけている。
- Q5 一人でさみしそうにしている子がいたら、進んで声をかけている。
- Q6 友だちがいやなことを言われていたら、言っている子に注意したり先生にたすけを求めたりする。
- Q7 今まで、かげぐちをいったことがない。
- Q8 「いじめや無視」をしようときそわれてもきっぱりとことわる。
- Q9 今まで、いじめをしたことがない。
- Q10 いじめは絶対にしてはいけないことだと思う。

学校へ行くのは楽しいですか



保護者アンケート自由記述より

- ・お世話になり、有難うございます。学校は楽しく通っているようです。挨拶をしっかりしてもっと本を読んで欲しいです。
- ・ネットの時間が増えてきました。注意すべきか悩みます。
- ・学校連絡メールで授業や宿題などの訂正などがある場合は学年まで書いていただきたいです。
- ・体育大会の日程をスポ少だけの都合で変更するのはおかしいと思えます。それによって影響が出た保護者もたくさんいたと思います。
- ・修学旅行で、他の小学校はブログで旅行の様子がアップされていましたが、三方小はアップがなく様子がわからず心配しました。

保護者の皆様からいただいたご意見の中には、すぐに対処したものもありますし、三学期や次年度の課題として検討すべきこともありました。また、家庭・地域・学校協議会で出された意見や感想についても、今後説明していきたいと思えます。

1月

- 9日(火) 始業式 [下校 11:30]
- 10日(水) 給食開始
- 25日(木) 三方中見学会 [6年]
- 26日(金) 学校公開日

(I) 学力向上部会

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ
自ら学び、進んで表現する子の育成	主体的に対話的な深い学びの推進	自分の考えを持ち、伝え合い、高め合う指導法の工夫に努める。	(取り組み指標)…教員 主体的に対話的で深い学びになるように工夫する。	主体的に対話的で深い学びになるように工夫することが A できた。	A+Bが 100%	
			(目標指標) A+Bの合計が95%以上 [昨年度100%]	B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。		
		(満足度指標)…児童 【4月～11月】 授業に主体的に取り組むことができる。	授業に主体的に取り組むことが A できた。	A+Bが 99%		
		(目標指標) A+Bの合計が95%以上 [昨年度98%]	B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。			
	ICT機器を効果的に活用し、よく分かり、楽しい授業の工夫に努める。	(取り組み指標)…教員 日々の授業で、学習内容が分かりやすくなるように工夫して指導している。	授業で、学習内容が分かりやすくなるように工夫して指導している。	授業で、学習内容が分かりやすくなるように工夫することが A できた。	A+Bが 100%	
				(目標指標) A+Bの合計が95%以上 [昨年度100%]		
		(満足度指標)…児童 【4月～11月】 授業の内容が理解できる。	授業の内容が分かりますか A 分かる。	A+Bが 99%		
		(目標指標) A+Bの合計が95%以上 [昨年度99%]	B どちらかといえば分かる。 C どちらかといえば分からない。 D 分からない。			
読書活動の推進	自ら進んで本を読む児童を育成する。	(取り組み指標)…教員 児童に読書習慣を育成する。	児童が読書習慣を身につけるために指導・支援を実施することが A できた。	A+Bが 78%		
			(目標指標) A+Bの合計が90%以上 [昨年度93%]			B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。
	(成果指標)…児童 進んで本を読むことができる。	進んで本を読むことが A できた。	A+Bが 92%			
	(目標指標) A+Bの合計が95%以上	B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。				
(満足度指標)…保護者 お子さんは読書の習慣が身についている。	あなたのお子さんは、家庭で読書に取り組むことが A できた。	A+Bが 63%				
(目標指標) A+Bの合計が70%以上 [昨年度61%]	B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。					

【成果と課題】

(主体的に対話的な深い学びの推進)

自分の考えを持ち、伝え合い、高め合う指導法の工夫について、教員・児童ともに目標を上回った。教員が、児童の学習意欲の向上に向けて活動内容を工夫したり、グループになって友達と対話しながら学びを進めていったりすることで、自分の考えを深めることにつながり、さらに興味や関心を持って課題に取り組んでいると考えられる。また、今年度の研究の重点項目である学習の振り返りについて、教員が意識して振り返りの時間を設け日々の授業で実践している。ただ、振り返りにもさまざまな方法があり、それが児童の持つ考えの高め合いにまでつながっているかは疑問が残る。発達段階や学級の実態に合わせて、意義のある振り返り活動にしていく必要がある。

ICT機器の効果的な活用による、よく分かり、楽しい授業の工夫について、教員・児童ともに目標を上回った。ICT機器を使うことで、前時の学習を容易に復習したり確認したりできること、情報が視覚的にとらえられること、また、友達と考えをリアルタイムで共有できることなど、児童の適性や進度に応じた学習活動が充実し、それが理解度を高め授業の楽しさに結びついていると考えられる。また、教員がICT機器を駆使した授業を参観したり、職員研修でICTの活用例などを学んだりして、技能を高めている点も結果に結びついていると思われる。今後も、児童の学習意欲を高める学習ツールとして、有効な活用方法を模索していく。

(読書活動の推進)

教員の「児童への読書習慣の育成」の指標が昨年度より下回った。朝読書の時間の確保や教員による本の読み聞かせなど、読書推進を意図した取り組みは行っている。現在、児童一人に1台の端末が普及し、情報スキルの習得が進められていく中で、パソコンに触れる時間が多くなってきている。事実、休み時間になるとパソコンを取り出してタイピング練習に没頭する児童の姿がよく見られ、読書を勧めたいがタイピングの技能も身につけてほしいという思いもあって、読書の積極的な呼びかけが以前に比べてできていないように思う。ただ、児童や保護者の指標結果は昨年度並みであることから、本離れが進んでいるとか、読書が嫌だという児童が増えたとは考えにくい。改めて読書の楽しさや素晴らしさを伝え、保護者の方の協力も得ながら取り組みを継続し、読書活動の推進を粘り強く続けていく。

(2)豊かな心情部会

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ	
互いを認め合い高め合える子の育成	◎元気な挨拶と創造的協働活動の充実	・個に応じた支援体制を整備し、いじめや不登校の未然防止に努める。	(取り組み指標)・・・教職員 日々の教育活動で児童が楽しく学校生活を送れるよう工夫する。	日々の教育活動で児童が楽しく学校生活を送れるよう工夫することが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 100%		
			(目標指標) A+Bの合計が95%以上[昨年度100%]	(成果指標)・・・児童【4月～11月】 児童は楽しく学校生活を送っている。 令和5年度 全国	学校へ行くのは楽しいですか。 A 楽しい B どちらかといえば楽しい。 C どちらかといえば楽しくない D 楽しくない。	A+Bが 99%	
		・児童会活動や学校行事において、児童が主体的・創造的に活動できる場を設定し、多様な意見を互いに尊重しながら協働できるようにする。	(成果指標)・・・児童【4月～11月】 児童は友達と仲良く学校生活を送っている。	みんなで何かするのは楽しいですか。 A 楽しい B どちらかといえば楽しい。 C どちらかといえば楽しくない D 楽しくない。	A+Bが 99%		
			(目標指標) A+Bの合計が95%以上[昨年度100%]	(満足度指標)・・・保護者 お子さんは、学校生活を楽しく過ごしていると感じます。	お子さんは、学校生活を楽しく過ごしていると感じましたか。 A 当てはまる B どちらかといえば当てはまる。 C どちらかといえば当てはまらない。 D 当てはまらない。	A+Bが 97%	
		○人権教育、児童会活動の充実	あいさつ運動の推進を通して、望ましい人間関係を構築する。	(取り組み指標)・・・教員 進んであいさつする指導や活動を行う。	進んであいさつする取り組みが A できた。 B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 100%	
				(目標指標) A+Bの合計が100%[昨年度100%]	(成果指標)・・・児童 進んであいさつができる。	進んであいさつが A できた B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 90%
	(目標指標) A+Bの合計が90%以上[昨年度92%]		(満足度指標)・・・保護者 あなたのお子さんは進んであいさつをしている。	あなたのお子さんは、家や地域であいさつが A できた B どちらかといえばできた。 C どちらかといえばできなかった。 D できなかった。	A+Bが 85%		
	(目標指標) A+Bの合計が90%以上[昨年度92%]						

【成果と課題】

(元気な挨拶と創造的協働活動の充実)

あいさつに関する取り組みでは、「進んであいさつできる」と肯定的に回答した児童が90%であったが、昨年度に比べて2ポイント減少している。さらには保護者の回答では「進んであいさつしている」と肯定的な回答をされた割合が85%と目標としていた90パーセント以上を下回った。昨年度の回答と比較しても7ポイントと大きく減少している。学校では登校時の班長がしっかりとあいさつできる班は元気なあいさつができている。また、昨年度に比べて地域の方々に対して自発的にあいさつができる児童も増えてきている。児童会での取り組みや、PTAで5月から11月にかけて月に1回実施しているあいさつ運動などを通して、あらためて児童のあいさつに対する様子の把握と自発的・積極的にあいさつをしようとする態度の育成を図っていきたい。また、「みんなで何かをするのは楽しい」という項目で99%の児童が肯定的な回答をしているが、昨年は100%であったことを考えると「どちらかといえば楽しくない」と答えている1%の児童を看過することはできない。普段の授業や学校行事だけでなく、休み時間などに縦割り班での遊びを取り入れるなど協働的な活動の機会を設けることで、互いに関わり合うことで得られる連帯感や協力して目的を達成できた喜びなどを得られるよう支援していきたい。

(人権教育、児童会活動の充実)

学校生活においては99%の児童が「学校へ行くのは楽しい」と肯定的な回答をしている。新型コロナウイルス感染防止対策の緩和により、児童会活動では全校遊びを企画運営したり、全校でのクイズ大会などを行ったりするなど休み時間や学校行事において異学年での交流ができるようになったことで学校生活を楽しく感じることができているのではないかと考えられる。異学年交流では低学年に対して優しく接することができる高学年児童が多く、よりよい関係が構築できているように感じられる。しかし、保護者アンケートにおいて「お子さんは、学校生活を楽しく過ごしていると感じましたか」という項目において、3%の方が否定的な回答となっており、さらに1%の方は「当てはまらない」と回答されている。毎月実施している学校生活アンケートや年2回の教育相談による児童の実態把握と情報の共有、そして問題の早期発見と早期対応を心がけるとともに、保護者の方との連携もより一層図っていききたい。

(3) 体づくり部会						
項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ
自分の健康について考え行動する子の育成	望ましい生活習慣の育成	・我が家のスマートルールを守れたか長期休み明け前後にチェックさせ、適切な利用について意識づける。 ・ネット利用についての講習会を行い、保護者への啓発を図る。	(取り組み指標)・・・教員 インターネット、メール、SNSなどのルールを守らせるなど、情報モラルを理解させる取り組みを行う。	ネットのルールを守らせるなど情報モラルに関する取り組みが A できた。 B どちらかといえできた。 C どちらかといえできなかった。 D できなかった。	A+Bが 89%	
			(成果指標)・・・児童 インターネット、メール、SNSなどのルールを意識して守ることができる。 令和3年度三方小	就寝時刻の1時間前にはネット利用をやめることが A できた。 B どちらかといえできた。 C どちらかといえできなかった。 D できなかった。	A+Bが 78%	
			(満足度指標)・・・保護者 あなたのお子さんは、インターネット、メール、SNSなどのルールを守っている。	お子さんは、就寝時刻の1時間前にはネット利用をやめることが A できた。 B どちらかといえできた。 C どちらかといえできなかった。 D できなかった。	A+Bが 62%	
			(目標指標) A+Bの合計が80%以上[昨年度83%]			
進んで体を動かす子の育成	・身体を動かす遊びや運動をするよう積極的に声掛けする。 ・委員会(総務・体育等)活動で、楽しく運動できる企画を設ける。	(取組指標)・・・児童 進んで体を動かすことができる。	休み時間に、体を動かす遊びや運動ができましたか。 A できた B どちらかといえできた C どちらかといえできなかった D できなかった	A+Bが 79%		
		(目標指標) A+Bの合計が80%以上[昨年度96%]				
(4) 開かれた学校						
項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判断基準	結果	グラフ
開かれた学校づくり	学校からの積極的な情報発信	学校公開日や、学校だより、学年だより、連絡メールなどを通して開かれた学校づくりに努める。	(成果指標)・・・保護者 学校公開日や、学校だより、学年だより、連絡メール、ホームページなどを通して学校の様子がよく分かる。 (目標指標) A+Bの合計が95%以上[昨年度98%]	学校参観日や、学校だより、ホームページ、学年だより、連絡メールなどを通して学校の様子を知ることが A できた B どちらかといえできた C どちらかといえできなかった D できなかった	A+Bが 95%	
【成果と課題】						
<p>(望ましい生活習慣の育成) 「就寝時刻の1時間前にはネット利用をやめる」という目標についての肯定的回答率は昨年度とほぼ同じで目標指標ををやや下回る。2学期より、毎週月曜日に、前の週のネット利用について振り返る取り組みを始めたので、児童が意識したり教員が実態把握をしやすくなった。また、長期休みの時には、「健康カード」にチェック欄を設け、意識づけを図っている。生活習慣が乱れやすい冬休みにも実施する予定である。これらの取組を続けて、成果を見ていきたい。保護者の評価も昨年度と同じで目標指標に達していない。2学期末保護者会でネット利用についての講演会を実施するので、一人でも多くの保護者に聞いていただき、家庭でのスマートルールの遵守に役立ててほしい。</p> <p>(進んで体を動かす子の育成) 児童の肯定的評価が、昨年度より著しく低下している。休み時間、外や体育館で遊んでいる児童は非常に多いが、その一方でパソコンを利用している児童も以前より増えたからだと考えられる。11月末より、昼休みに縦割り班遊びや学年ごとの集団遊びが実施されるようになったので、今後みんなで体を動かして遊ぶ機会が増えると期待される。児童が楽しいと感じられるよう、遊びの内容や環境を工夫していきたい。</p> <p>(学校からの積極的な情報発信) 保護者の肯定的な回答が95%と非常に高く、目標を達成することができた。学校公開日や各種だより、ホームページやブログなどを通して、学校の様子を保護者に十分知らせることができた。ただ昨年度の98%からは3%下がっている。その原因として、昨年度は全ての保護者が参観できない「感謝のつどい」を期間限定でYouTubeで家庭に発信したが、本年度は「感謝のつどい」を1年～3年で行うことに変更したので配信をとりやめたのが一つの原因として考えられる。また昨年度、保護者より「もう少し頻繁にブログを更新してもらえありがたいです」と要望があり、本年度は計画的学級の活動や日々の学校生活の様子についても紹介し、昨年度以上にブログを更新することができた。ただ保護者から出た意見として「修学旅行で、町内他の小学校はブログで旅行の様子がアップされていたようですが、三方小学校はアップがなく、様子がわからず心配しました。せめて写真1枚ブログであげてもらえたらと思いました。」という要望があった。来年度は要望に応えられるように頑張りたい。</p>						

